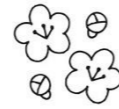




ほけんだより 3月



2024年3月4日
聖隷こども園
保育園 保健部会



1年間のまとめの時期になりました。4月にはひとつ上のクラスへの進級や、小学校への入学が待っています。1年間を振り返って、幼児クラスのお子さんはどんなことが身についたかお家の人と一緒にみてみましょう。また、乳児クラスのお子さんがあるご家庭は、成長とともに少しずつ下の表のような生活習慣を身につけていけるといいですね。

どんな成長があったかな？

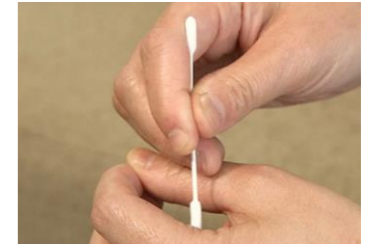
 <p>はやね はやおき</p>	 <p>かおを あらう</p>	 <p>てあらい うがい</p>
 <p>あさごはんを まいにち たべる</p>	 <p>はみがき</p>	 <p>にがてなものも がんばって たべる</p>
 <p>いいうんちが できる</p>	 <p>そとで たくさん あそぶ</p>	 <p>こんなこと できるようになったよ</p>

子どもの耳掃除のポイント

耳あかは、耳垢（じこう）腺、皮脂腺、汗腺からの分泌物、古くなってはがれた皮膚、ホコリなどが混ざりあってできたものです。皮膚の表面にある細やかな毛の動きやあごの動きによって、自然に奥から外へ押し出されるため、頻繁に耳掃除する必要はなく、月に1~2回ほどでよいです。

○子どもの耳掃除は、耳かきではなく綿棒

ベビー用綿棒は、子どもの小さな耳の穴にも入りやすいです。鉛筆のように持つと、自然に小指で手を支えることになるので、耳の奥深くに綿棒が届かないため、安全です。



○頭をしっかりと押さえ、耳たぶを少し後ろに引っ張り、汚れが見える部分だけをぬぐう

入り口から1cmほどの部分をそっとぬぐい取るだけで十分です。奥まで掃除しようとするとうつ膜などを傷つけたり、逆に耳あかを奥に押し込んでしまったりすることになるので注意しましょう。



○お風呂上がりなど、耳の中が湿っているときが取れやすい

カサカサした耳あかは、綿棒にベビーオイルやワセリン、オリーブオイルをつけると取れやすくなります。

○取りにくい時は耳鼻科を受診

保険適用が認められています。自然に取れない、子どもが動いて危ない場合は、無理にとろうとせずに耳鼻科を受診しましょう。



耳掃除をする時に注意すること



- 耳の奥まで綿棒を入れない
- 必ず安全な場所で周囲を確認してから行う
兄弟やペットなどがぶつかるとうつ膜をしてしまいます
- 綿棒は子どもの手の届かない場所にしまう